

筑波大学附属高等学校

スクール・ミッション／スクール・ポリシー

本校は、スクール・ミッション（長期的な将来を見据えた、各学校の存在意義・社会的役割・目指すべき在り方）とスクール・ポリシー（スクール・ミッションに基づく教育活動を実現するための方針）とを策定すべく、2021年度の一年間をかけて、教職員間で検討・協議を重ねてまいりました。完成したものをここにお示ししますので、本校の指針としてご覧いただければ幸いです。

なお、一度完成はしておりますが、今後も本校の将来像を考えつつ、長期的に文言の練り上げを行ってまいります。

1. スクール・ミッション

…… 長期的な将来を見据えた、各学校の存在意義・社会的役割・目指すべき在り方。

本校は、筑波大学の教育研究に協力する附属高等学校として、また、次代にわたって生徒に求められる資質・能力を養うための後期中等教育を施す機関として、次の使命をもつものである。

1. 生徒の資質・能力の育成に資する教育の理論および実践について研究・実証し、また、高等学校教育の参考に供することを通して、先導的教育拠点としての役目を担う。
2. 筑波大学の学生で、教員を志望する者の教育実習の指導に協力することや、高等学校教員その他の教育関係者の研修に資することを通して、教師教育拠点としての役目を担う。
3. 国際化の時代に求められる資質・能力を育成することと、その成果を広く発信することを通して、国際教育拠点としての役目を担う。

2. スクール・ポリシー

…… スクール・ミッションに基づく教育活動を実現するための方針。三つに分かれる。

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

本校は、スクール・ミッションに基づいて、現代から次代にわたって求められるジェネラリストの育成を念頭に置き、生徒が三年間の諸学習活動を通して以下のような資質・能力・態度を身につけ、それらを社会との関わりの中で発揮できるようになることを目指す。

1. 知的好奇心を大切に、幅広い学問分野の様々な事柄に関心を寄せ、楽しんで学び続けることができる。
2. 目的に応じて論理と感性とを柔軟に駆使しながら思考することができる。
3. 自他の多様性を理解し、受け入れ、集団での協働を通して学び合うことができる。
4. 多分野の学習を通して得た知見を独自の視点で結びつけながら、新しい課題の発見・解決に努めることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

本校の教育課程およびその実施・学習評価は、次の方針に基づいて計画・運営される。なお、この方針の内容については、教務部および研究教職部をはじめとする関係部署で今後も継続的に吟味するものとする。

1. 教育課程

- ジェネラリストの育成を念頭に置き、文理等の系統を問わず、生徒が在学三年間を通じて幅広い教科・科目を履修できるカリキュラムを組織する。
- 特に三年次においては、生徒が自身の興味・関心や希望する進路に合わせて柔軟に履修科目を組み合わせられるよう、多分野の選択科目を開講する。

2. 実施の方向性(指導実践の手法)

- 生徒の自主的な教科学習を支える基本的な知識および技能の修得を徹底し、論理と感性とを駆使しながらの思考に結びつけられるようにする。
- 生徒の学習意欲を喚起するような、専門性の高い内容、あるいは実社会との結びつきが分かる内容を教科指導に積極的に取り入れる。
- 生徒の思考力や表現力を育むため、考えを言語化して表出する活動を教科指導に取り入れる。
- 特別活動を含む諸学習指導は、目的に応じて意見交換や討議、相互評価など、生徒同士の関わりの中で行われるよう計画する。
- 探究的に活動する場面を設けたり、生徒が自身の学習過程をふりかえる時間をとったりして、生徒自身が次に取り組む課題に気づけるよう促す。

3. 学習評価の方向性

- グラデュエーション・ポリシーと上記「2. 実施の方向性(指導実践の手法)」とに照らした評価規準を研究する。
- 指導の目標と生徒の実態とを勘案し、適切な観点と方法で評価する。
- その評価は、結果が生徒に自らの課題を認知させ、次の学習に向けた意欲を喚起するものになるようにする。

アドミッション・ポリシー (入学者受入れに関する方針)

本校は、生徒の多様性を尊重しつつ、入学者に次のような人物像を期待する。

1. 本校のモットーである「自主・自律・自由」の大切さを理解する人
2. 中学校段階までに修めるべき基礎的学力を身につけており、また、これからも学び続けようとする意志のある人
3. 中学校での三年間および高等学校での三年間のそれぞれについて、進学準備のためだけの時間と捉えるのではなく、自分と向き合い、今を大切に生きようとする人